

# ウメの損益分岐点について

損益分岐点と言うのは、ある一定期間の売り上げとそれに要する費用とが同じになる点のことで、費用と収益がとんとんになり均衡する点ということです。

## \* 損益分岐点を取り上げられるのは

一口で言うと経営が難しくなってきたと言うことです。経営は以前と比べ複雑になり、流動化も早くなっています。このような時に経営を的確に把握し、対応することが非常に重要になってきたからです。また、機械化や施設整備が進み固定比率が高まったり、労賃の上昇や生産資材の値上がりなど経営を圧迫する要素が増えていることも見逃すことはできません。

## \* 固定費と流動費を分ける。

損益分岐点の計算には、固定費と流動費を分けなければなりません。

固定費というのは、売り上げの増減に関係なく一定額必要な費用のことです。たとえば、機械や建物の償却費のように、売り上げが増えても減っても関係なく常に一定額必要な費用のことです。

これに対し変動費は、売上高の増減に比例して増減する費用のことです。たとえば、肥料費や農薬費などです。しかし、固定費と変動費を明確に区分できない費用もあります。

このような費用は、いずれかその要素の強いほうに見なす方法と固定費と変動費とに分ける方法があります。

## \* ウメの損益分岐点は

損益分岐点の算出には計算と図による2つの方法があります。ここでは計算による方法を説明します。

ウメは値段がよく、採算割れの心配はないと思われていますが、平成6年度の生産費調査(農林水産統計年報)を参考に損益分岐点を計算してみます。

なお、生産費のなかに家族労働費(見積額)を入れています。これは企業の経営を営むためには、家族労働費も費用としての認識が重要と考えられるからです。

## \* 生産費調査結果(平成6年度) 10a当たり

	変動費	固定費
肥料費	39,614	
農薬費	35,167	
光熱費	5,172	
公課諸負担		9,007
建物費		5,246
農機具費		20,161
成園費		17,062
園芸施設費		14,683
家族労働費		304,298
雇用労働費	27,422	
計	107,375	370,457
売上高		659,315

(公式)

$$\begin{aligned} \text{損益分岐点の売上高} &= \frac{\text{固定費}}{\left(1 - \frac{\text{変動費}}{\text{売上高}}\right)} \\ &= \frac{370,457}{\left(1 - \frac{107,375}{659,315}\right)} = 442,600\text{円} \end{aligned}$$

損益分岐点44,600円と言うのは、この額より下回ると損失が生じ、上回ると利益がでる岐れ目の売上高のことです。

次に、経営安全率をみてみますと、

(公式)

$$\begin{aligned} \text{安全率} &= \frac{\text{実際の売上高} - \text{分岐点売上高}}{\text{実際の売上高}} \times 100 \\ &= \frac{659,315 - 442,600}{659,315} \times 100 = 32.8\% \end{aligned}$$

ちなみに企業の場合は、10%以下が要注意企業、10%~20%が正常企業、20%~40%が優良企業とされています。

また、この32.8%に年間売上高を乗ざると216,300円となり、これだけ売上高が減少すると利益はゼロになることを示しています。

ウメは価格も良く利益のでる数少ない農作物ですが、他の農作物ではこのように高い経営安全率はえられません。順調な経営が行われている時こそ、しっかりした経営基盤を築き上げる時でもあります。

(ウメ対策チーム 卯辰 寿男)